

# 村政懇談会（白方地区）会議録

～ 持続可能な自治会活動 ～

記録者：星田

○日 時 令和3年7月10日（土） 10時00分～12時00分

○場 所 白方コミュニティセンター（2F会議室）

○出席者 <白方地区> ※敬称略

川井芳夫（白方区自治会長）、坂本雅行（白方区副自治会長）、佐藤孝幸（白方区副自治会長）、川野好勝（岡区自治会長）、川崎陽生（岡区自治会代表）、井上一（百塚区自治会長）、佐々木浩（百塚区副自治会長）、山崎毅（百塚区副自治会長）、黒澤一則（豊白区自治会長）、鈴木芳樹（豊白区副自治会長）、橋本隆雄（豊岡区自治会長）、小林司（豊岡区自治会代表）、佐藤弘昭（亀下区自治会長）、佐藤文昭（亀下区副自治会長）、森下祐樹（原子力機構百塚区自治会長）、城戸健太郎（原子力機構百塚区副自治会長）、鈴木寛（村松北区自治会長）、小野寺紀夫（村松北区副自治会長）  
白方コミュニティセンター 荒川センター長、照沼専門サポーター、記録者

計21名

<東海村>

山田村長、萩谷副村長、村民生活部 佐藤部長  
地域づくり推進課 池田課長、三瓶課長補佐、鷹野課長補佐、大道係長、根本主任

計8名

○主な内容

## 1. 開会

### 【荒川センター長】

お忙しい中、令和3年度白方地区村政懇談会に御参集いただき感謝申し上げます。本日の懇談会の進行を次第に沿って務める。本日の村政懇談会の様子は「広報とうかい」などに掲載を予定しており、写真撮影させていただくので御了承いただきたい。まず、今年度の村政懇談会の開催趣旨について、村民生活部地域づくり推進課課長から説明する。

## 2. 趣旨説明

### 【池田課長】

これまでの村政懇談会は、人数・規模も大きく、地区自治会の皆さんには負担が大きかった。今回は、参加者全員が発言できる規模であるということと、コロナ感染防止対策ということで人数を絞った形での開催とし、個別要望については、これまで通り自治会要望や村民提案といった形でお伺いしたいと考えている。

本日の開催趣旨の1つ目は、事前に決めたテーマ「持続可能な自治会活動」について、地域と村が対話を通し一緒になって考えていく場としたい。2つ目は、このテーマについて今後地域の皆さんが対話を重ねていくきっかけの場としたい。

更には地域の中で話し合いを重ねていただき、地域として、どのようなことに取り組むのか、村と一緒に取り組むものは何なのか、話し合いを続けて結論を導き出していただき、その結果、村として取り組むべきこと、できることを今後の村の事業等に反映したい。

## 3. 村長あいさつ

### 【山田村長】

土曜日の貴重な時間にお集まりいただき感謝申し上げます。コロナ禍でもあり、新しいスタイルでの村政懇談会で、参加した人に必ず意見を言うていただく形にした。村内6地区のうち、5地区を終え白方地区が最後で、これまでのテーマは総じて、自治会活動をどのように継続させていくのかであり、どこの地区でも悩みのようである。

今まで単位自治会は機能していて、負担になっているのは地区自治会だと思っていたが、意見を聞いてみると単位自治会がもたないようである。単位自治会の基礎になる常会(班)が疲弊し抜ける人がいて、班そのものが自治会を抜ける実情もあり、単位自治会の維持も大変で、なおかつ役員の担い手もなく深刻な状況である。

役場は、単位自治会へ色々なことをお願いしてきた。地縁組織ということで地域に根付いた地域活動であてにしていたが、今後はしっかりとサポートし、具体的な施策を考えないと大変なことになる。当然役場は38,000人の行政サービスを行っているが、一人一人へのニーズに応えることはできない。ある程度地域で解決して、地域でやってもらうしかないの、そこが機能しないと役場が全部対処することになるが、それはあり得ない。その意味で、今自治会活動や自治会に加入されている方々に引き続き継続してもらうことと、関心を持っていない方に、どうやって自治会活動に理解をもらうかが重要である。先日、役場が転入者へ渡している自治会のリーフレットについて、説明も無く、中身もありきたりでインパクトも弱いということと言われた。リーフレット配付の段階から村長メッセージや自治会活動の大事さを若い転入した方へ訴えることはすぐできるので、そういうことから少しずつ進めて行く必要がある。懇談会で意見をいただき、できることは取り入れて変えていくという点では、意味のある懇談会になる。皆さんの悩みを聞いて、すべて今日答えられる訳ではないが、その中からできることをしっかり取り組んで役場と地域が一緒になって地域の活動を支えていきたい。

ワクチン接種について、皆さん冷静な対応で、今のところ順調に進んでおり、60歳以上の方が予約を取れる状況である。対象者約13,000人に対して、1回目の接種7400~7500人、2回目の接種3000~4000人まで完了した。60歳以上は目途が立ったが、60歳以下はワクチンの入手情報に合わせて、予約枠の開放をして、順次接種できるようにするので、御理解と御協力をお願いする。分からないところがあれば、コールセンターへ問い合わせいただきたい。

#### 4. 出席者紹介

【荒川センター長】

#### 5. 進め方について

【荒川センター長】

本日のテーマ「持続可能な自治会活動」については、自治会会員の高齢化による会員数の減少や役員のなり手が見つからなく、自治会活動が思うように行かない危機感からこのテーマに決まった。テーマに絞って、村の考え方を示しながら地域では何がやれるのか、村と一緒にやりたいことは何なのかを対話を通して明らかにしていく。

そのためにまず、村民生活部からテーマに関連する自治会の状況・村の取組み等について説明を受け、その結果を踏まえて、皆さんから1人2分程度で自治会活動において感じていることなどを聞かせていただき、その後、村長から皆さんの意見に対して、村の考え方を申し上げることとする。さらにはテーマに沿って意見交換を進め、今後繋がる有意義な懇談会にしたい。

本日の懇談会を進めるにあたり2つのお願いがある。1つ目は、貴重な意見を頂戴しようと思うので、1回あたりの発言は2分以内にしていただきたい。後ほど「参加者同士の意見交換会」の時間確保が難しくなるので、2分を過ぎてしまった場合はベルを鳴らさせていただく。

2つ目は、常にテーマを意識し、発言者の話を良く聴いて、その内容を否定しない前向きな発言をお願いする。本日の終了時刻は12時を予定している。

## 6. テーマに関する現状について（村民生活部部长）

### 【佐藤部长】

- ・資料1「行政区別・年齢別の世帯数及び人口推移」：東海村の人口関係について、平成23年～令和3年の人口推移を見ると、全体では減少に転じていないが、人口構成の割合が大きく変わっており、15歳未満の若年層(子ども)が減少し、75歳以上の高齢者が増加している。白方区は人口全体は増加傾向だが、子どもは減少、高齢者は増加している。豊岡区は人口全体、子どもは減少、高齢者は増加、加入率は村平均より高いが減少している。岡区は人口全体、高齢者、子ども全て増加。加入率は減少しているが高い水準。百塚区は人口全体、子どもは減少、高齢者は増加、加入率も減少。亀下は人口全体、子どもは減少、高齢者は増加、加入率は減少傾向だが村平均より高い。原子力機構百塚区は社宅であり状況が違うが、人口は減少。豊白区は人口全体では大きく変わっていないが、高齢者は増加し、子どもは減少、加入率は概ね村平均である。村松北区は人口全体、子どもは減少、高齢者は増加、加入率は村平均より低い。加入率は、どの自治会も概ね共通して減っているが、地域によってアパートの多い・少ないがあり、一律に比較できない。
- ・資料2「行政区別・年齢別の世帯数と人口」：単位自治会別で人口関係を順位付けしたもの。白方区は、人口・世帯数が多く大規模な単位自治会となっている。一方、高齢化率は、東海村全体で豊岡区が4番目と高く、白方区は21番目と低い。
- ・資料3「自治会別高齢化率」：村の中心部は、高齢化率が低く、端の地区に行くほど高齢化率が高くなっている。
- ・資料4「地域活動に対する村の支援のご紹介」：①情報交換や交流機会の提供について、村政懇談会や自治会長連絡会議、意見交換会を設け、対話を通して解決策を見出すということで、今後も継続して行っていく。②財政的支援について、単位自治会交付金、地区自治会補助金、自治集会所の改築、新築等の補助を行っている。③団体運営に対する人的支援として、地区自治会、地区社協、村民会議への運営を各コミセン職員がサポートしている。④ふれあい保険について、村の団体が活動を行った場合に事故、怪我等を生じた時に保険が適用され、自由な活動をサポートしている。⑤コミセンの施設管理と環境整備をしている。⑥地域との協働への取組について、村と自治会で「協働の事業」の協定を締結し、一緒にクリーン作戦や広域避難訓練などを実施している。
- ・資料5「自治会運営を続けていくための全国の取組事例のご紹介」：全国的に共通して言えるのは、自治会活動が負担となっており、役員の成り手がいないこと。加入者も減っている中で非常に負担が多いこともあり、思い切った見直しで会員の負担軽減をということで、今後「続けていくもの(必要なもの)」「削減していくもの」「縮小していくもの」を皆さんで話し合っで見直しを行っていく。役員の負担軽減では、会議の回数・方法などを見直す。委託化では、予算上のやり繰りは必要だと思うが、お祭やイベント時のテント設営や飲食の提供、力仕事で負担になるものを業者へ委託して負担軽減を図る。
- ・資料6「単位自治会の主な活動」：今年度予定している主な活動が記載されているので、参考までに別途御参照いただきたい。
- ・資料7「ごみ集積所と自治会加入について」：東海村のごみ集積所は、約800か所で、5割が自治会管理、残りの5割がアパート・集合住宅で管理している現状である。原則として10世帯以上で集積所を設置することができる。自治会においては、加入者は5世帯以上で設置する

ことができるということで、差をつけている。全国で、9割以上が原則10世帯以上の利用者で設置、加入して行うステーション収集方式を実施している。新たに集積所を設けたい場合は、場所を選定後、必要な届出をお願いする。

## 5. 地域住民からのテーマに対する考え・意見

### 【村松北区自治会長 鈴木 實】

- ・自治会長になった経緯を説明したい。自治会長は選出委員会で決めるところ、選出作業をしても見つからず、自治会を解散するには問題があり、当時相談役だった私が会長にさせられた。自治会長も決められない状態を何とかしなければならぬ。
- ・高齢化が進み、コロナ禍で集まる機会もなくなり、親密度がなくなった。
- ・どうしたら自治会として今後も継続していけるのかの話し合いを、自治会内の学識経験者や理解のある方々と話し合えば良い。

### 【村松北区副自治会長 小野寺 紀夫】 資料「高齢化社会での自治会活動の見直しについて」

- ・資料を作ってきたので、それを見ていただきたい。自治会から常会脱退や役員成り手不足の要因をまとめた。脱退理由は、高齢者世帯は年齢的に常会活動に参加できないため、現役世帯は、常会加入のメリットが見当たらないためと考えられる。成り手不足については、高齢者は年齢的に不可能であり、現役世帯は仕事が忙しくてできない。まとめると、メリットがないということと、若手は時間がないこと、高齢者は年齢的に対応できないということが大きな課題である。
- ・自治会加入世帯の減少による影響で、「協働の指針」が絵に描いた餅になるのではないかと懸念がある。これらの問題に対して、現在どうなっているのか。行政は自治会独自の問題であり、不可侵であるという考え方、我々自治会は役場が何かやってくれるのではないかと淡い期待があって、動き出せない。
- ・課題解決として、行政との関係や地区自治会・単位自治会の業務の見直しを含めて、検討委員会を立ち上げた方が良い。現役員に関わらず過去の役員にも参加いただく。

### 【原子力機構百塚区自治会長 森下 祐樹】

- ・自治会活動を若い人の地域交流の場と考え、親子で参加のイベント開催を増やす。子どもが参加すれば、親も参加するので地域の自治会活動を知ってもらえる。

### 【原子力機構百塚区副自治会長 城戸 健太郎】

- ・地域活動の担い手は、若い人が地域に根を下ろして自治会活動ができる人にかかっている。
- ・東海村出身ではないので土地購入に制限がある。転入者の土地購入条件を緩和してほしい。

### 【亀下区自治会長 佐藤 弘昭】

- ・常会の脱退者が多い。常会長等の当番制の職務が負担である。負担軽減しないと常会加入者が減っていつてしまう。

### 【亀下区副自治会長 佐藤 文昭】

- ・自治会、常会のやり方がマンネリ化している。常会の負担が多く活動継続を懸念している。子どもを含めて若い人が楽しく参加できるアイデアを考えたい。
- ・亀下区は、水害が心配であり、自治会主導の活動で頼りになる自治会でありたい。

- ・地区自治会，単位自治会が重複して活動しているので，精査する必要がある。

**【豊岡区自治会長 橋本 隆雄】**

- ・自治会加入率も多く，まとまっている自治会である。
- ・自治会活動は，年間を通して同じ顔ぶれなので，マンネリ化を避けてシンプルな形を考える。三役以外は順番制で決めているが，正副自治会長の選出が一番問題。選考委員会で選んだ方へ何回となく自宅へ直接お願いしている状況である。任期は2年としているが4年になってしまうこともネック。任期2年を守り，活動内容・行事の見直し・軽量化及び組織のシンプル化を進める事で，役員の成り手を確保できるのでは。
- ・地区自治会と単位自治会で共有できるものはしていく。
- ・活動は強制できないので，根気よく説明していくことが大事である。

**【豊岡区自治会代表 小林 司】**

- ・本日の議題とは異なるが，小学校通学路の雑草（セイタカアワダチソウなど）の草刈りを母親たちが手狩りで行っている。役場で一度見に来てほしい。除草作業は村で年間2回行っていると思うが，3回にできないか。

**【豊白区自治会長 黒澤 一則】**

- ・色々な地域活動を展開しているが，負担感ばかりで，個人の喜び，興味関心に繋がらない。地域に様々な業種，達人と呼ばれている方がいるので，例えばD I Y指導の場を設けて活動の機会を作って，自治会活動の中で，個人の興味・関心や喜びを感じる事業を考えたい。
- ・それらの事業を展開することで，地域活動に興味をもってもらい，年齢・性別に関わらず，次の活動の展開に繋げていきたい。

**【豊白区副自治会長 鈴木 芳樹】**

- ・自治会の存続には，常会を大事にしないと長続きしない。
- ・豊白区のごみ集積所は2か所と少なく，高齢になっていくと運ぶのが大変だ。新潟県では，3～4軒毎に集積所があり，運ぶのが容易だ。集積所の確保，承認などは役場で動いていただきたい。

**【岡区自治会長 川野 好勝】**

- ・役員選出が問題で，岡区は4役を中心に運営を続けている。岡区の場合，任期が2年となっていて，書記・正副会長と一度入ると6年間役員職であるが，雇用延長等による成り手不足が現状である。
- ・何か秘策でもあればと思うが，他の自治会も見ながら，村からのアドバイスもあれば，参考にしながら進めていく。

**【岡区自治会代表 川崎 陽生】**

- ・子どもたちが参加できる活動であれば，当然ながら親も一緒に参加する。例えば祭りやイベントの焼きそば用器具を村でたくさん用意して，色々な自治会が同時期に利用できるように無料貸出をする。器具等を利用して，もっと楽しいイベントをたくさんつくって，子どもたちが来て，親も一緒に楽しめる自治会活動になれば良い。
- ・自分でも楽しまないと，ボランティア活動はできないし続かない。

**【白方区自治会長 川井 芳夫】**

- ・恒例行事を「いきいき白方づくり」と名付け、楽しく参加できることを考えている。
- ・今年度は、大きな行事として、グラウンドゴルフ大会、卓球大会、社会探訪会を予定している。
- ・事業展開には、役員が中心に活動しているが、興味のある方が少なく、役員・委員会の委員長になる方がなく、人選が難しい。自治会を管理するにあたって、加入者の減少や高齢者が自治会を抜けることが活動の足を引っ張っており、今後の課題だ。

**【白方区副自治会長 坂本 雅行】**

- ・白方区自治会は、700世帯と加入者が多いが、役員になる方が少なく悩んでいる。
- ・白方区では、民生委員は6名必要であるところ、5名しかいない。民生委員が75歳で引退したが、補充する人がおらず、村に相談したが自治会で対処してほしいとのことだった。村への要望として、この年齢制限を解除してほしい。

**【白方区副自治会長 佐藤 孝幸】**

- ・世帯数は増えているが、自治会加入率が減少状態だ。新しく転入した方が、加入していない状況である。
- ・広報紙の全戸配布、ホームページでの情報確認ができることは良いが、自治会加入すれば良いことがある環境を何か考えないと加入率は増えない。
- ・若い人が加入すれば、役員も選びやすい状況になる。

**【百塚区副自治会長 山崎 毅】**

- ・少子高齢化が年々進み、役員の成り手不足が問題。各班の班長も成り手不足、場合によっては自治会役員と兼務も必要だ。
- ・自治会加入の説明をするも何のメリットがあるか聞かれることが多い。
- ・役員の活動は、盆踊り大会や広報誌発行等大変である。後へ引継ぐ方がいるかどうかで、頭を悩ませている。

**【百塚区副自治会長 佐々木 浩】**

- ・自治会員の平均年齢は、70歳以上で、体制も行事も根本的な棚卸しが必要だ。
- ・なぜ自治会があるのか、あればうとうしいが、ないと困るのが組織だ。組織もごみも誰かが面倒を見てくれればいいが、うとうしさが残るので、自治会の必要性が減るのはしょうがない。黙って見ていれば崩壊する。
- ・これからは、自治会存在の意義を地域の価値を維持するためだと考え直すべきだ。
- ・仕事はやれる人にやってもらう。請負制である。ただし、特定の人に頼ってしまい、やらない人が出ることをどう抑えるかが問題。
- ・我々としては、安全・安心にフォーカスして活動するべきである。具体的にどうやるかは、簡単に結論が出る問題ではない、試行錯誤して進めるしかない。

**【百塚区自治会長 井上 一】**

- ・班の存続が課題で、高齢者が多く、半分以上の11班が、10人程度の少人数の班だ。71歳以上の世帯が、全体の44%を占めている。自治会は、今年の4月から少数班対策を実施している。自治会加入時に、若い人からよく「自治会の行事、内容が解らない」と聞くので、対策

資料「知っていますか自治会の事」を配布すると、こんなに良い活動をしているのに、何故PRしないのかという意見があり、今後は、百塚区報や各種会議などでPRしていく。

- ・個人の考えであるが、土地建物は個人資産であるが、高齢化によって空き家になっていて、更地になるまでに時間がかかる。国の資産管理にならないか。村へも提案していく。

## 6. 村長からのテーマに対する考え

### 【山田村長】

- ・小学校通学路の除草は、村道は公共事業として、以前は年3回、今は年2回と予算の関係で減っているが、結果的に2回だと繁茂が厳しいのか、担当に確認させる。村内全体で、どのように実施しているか確認した上で、対応を考える。除草作業も各地区やボランティアでやっていることに甘えていた部分があり、単位自治会のエリアを越えた所は、隣の単位自治会でやるのか、地区自治会でやるのか、除草エリアの線引きも難しい。本来こういった地域活動を誰がどこまでやるのか、もう一度考える必要がある。
- ・地域活動全体に言えることだが、防犯パトロール・環境美化・クリーン作戦・お祭・見守り、色んなことをやってもらっている。地域で、単位自治会として最低限ここまではやってくれというところをもう一度考えなくてはならない。やはり一番は安全・安心なので、防災だ。自主防災組織も作ってあるので、それがベースになって単位自治会としてどこまでやるのか。地区自治会との重複感もあるので、思いきって地区自治会の仕事を減らすのもありだ。
- ・子どもを参加させる行事を単位自治会毎にやっていくのか、学区では村民会議支部も別にあつて、同じ小学校区でも地区によって環境が違ってくるので、どこまでその行事のあり方をどうするか考える。今までは、皆さんのボランティア精神でやってきたが、やれることを限定してやる。そのためには、話し合いが必要で、検討委員会も必要だ。
- ・単位自治会、地区自治会、地区社協、村民会議支部の役割を整理する必要があり、村で整理した上で、皆さんに問いかけるので、一緒に考えたい。
- ・土地購入の緩和について、調整区域は県の条例で決まっており村の都合で変えられないが、村の方で調整区域の地域指定のあり方で、条例化か何かできることはないのかの検討は必要である。
- ・市街化区域の拡大は認められないので、調整区域の中である程度条件をつけて開発を許容していくことは必要だと思う。時間はかかるが、新しい人が転入しやすい環境をつくっていききたい。
- ・一方で、既存の空き家に対するニーズを調査しながら、リフォームの支援、助成金の制度をつくり、空き家対策も同時にやっていきたい。
- ・自治会に入るメリット・デメリットについては、自治会に入っている方が得となると、同じ税金を払っているのに自治会に入らないとサービスがなぜ受けられないのかというような、自分の権利を主張する人が増えている。
- ・ごみ収集は、他市のように道路上にネットをかけて置くだけではカラスなどの被害があり、村の集積所方式がベストと考えている。集積所を持つことが常会とのつながりにもなっているので、維持していきたい。
- ・自治会活動は、煩わしいが必要であるという考え方を転入者に最初に役場が伝え、その上で自治会から声かけをする。役場の方で、災害・犯罪時に地域の助け合いがないと、全て役場で個別に対応はできないので、地域とのつながりを大切にしてほしいと伝え、その上で皆さんが直接、地域ではこんなことをしていると声かけしてもらおうという役割分担である。
- ・成り手不足について、役員の負担軽減、行事の見直し、会議のあり方など簡素化することだ。
- ・民生委員の人は、人材を把握していないこともあり、候補者探しは地域にしてもらい、説得

は役場です。民生委員の定年延長は、国で定められているので、変えるのは無理だ。

- ・役場でやれることはやっていかないと、全部地域にお願いするばかりだと動かなくなる。そのような問題が顕在化してきた中で、やれるところを一つずつ変えていきたい。

## 7. 参加者同士の意見交換（フリートーク）

### 【荒川センター長】

自治会活動に対する課題とそれらに対する自治会、村の考え方が共有できたのではないかと思うので、それらを踏まえて参加者同士の意見交換の場としたい。

### 【白方区副自治会長 坂本 雅行】

- ・役場OB、教職員退職者は、即活躍できる人材なのに自治会に入っていない。個人的には、役場の指導の仕方が悪いのではないかと。

⇒役場OBには、退職の辞令交付時に、地域活動は一定程度の役割を担って欲しいと声かけをしている。しかし、役場から開放されたのに、地域に入ると何でも知っているの、聞かれることも多く役場の延長になってしまうので、一度切り離したいようだ。ただ、役場職員の宿命で経験値がある以上、その経験を地域で生かすよう、今後も伝えていく。役場職員でも、地域の一住民なので地域活動へ協力をして欲しい。一方、百塚区の若い職員は比較的手伝いをしているといったこともあるので、職員、OBへ伝えていく。（村長）

### 【萩谷副村長】

- ・村長から、若い職員のうちから自治会に関わらないと退職後は入りづらいとあったが、村の若手職員の研修として各地区自治会へ派遣し、イベント計画から実施までを地域の人と行っている。コロナ禍の状況を踏まえて再開し、地域の実情等を分かってもらえる形にしたい。
- ・村松北区小野寺副自治会長の資料では、今の自治会の現状を端的に表しており、他5地区も同じような問題を抱えている。百塚区佐々木副会長が話されたように、事業の棚卸しが必要だ。退職しても仕事から解放されるということがなく、働きながら役を担ってもらうしかないの、是非この機会に役員負担軽減を図っていくことが大事であり、女性の方も担えるような負担軽減を考えて行くことも必要だ。

### 【村松北区副自治会長 小野寺 紀夫】資料「高齢化社会での自治会活動の見直しについて」

- ・ベースとなる常会だが、今後は順番制では成り立たないのではないかと。常会長については、ある程度はお金を増やして何年か元気なうちにやっていく制度に変えるべきだ。
- ・全体の自治会に係る費用を抑えながら、組織改正ができないのか変えていくべきだ。

### 【百塚区副自治会長 佐々木 浩】

- ・請負制度を考えるべき。順番制の時代ではない。
- ・業務の棚卸しについて、役場の方でもお願いしたい。近所のごみ集積所を管理する上で、2名の方の顔が見えなくなった。民生委員や役場に問い合わせると、個人情報によって守られて全然教えてくれない。あちこち聞き回り、やっと1人は亡くなり、もう1人は高齢者住宅に入ったことが分かった。自治会の責任ある立場の人間に対しては、しっかりとした回答する体制になるよう業務の棚卸しをお願いしたい。

### 【百塚区自治会長 井上 一】

- ・百塚区は災援プランの協定を結んでいない。自治会会員以外の方を支援する人を探すことが課題である。百塚区は、71歳以上の世帯が44%を占めて、災害時に自力で避難できるのか、支援が必要なのか調べる必要がある。
- ・ごみ集積所の問題は、地域の問題として地域のボランティアの方にお問い合わせすれば、その人の安否も確認できる。ポイント制度を設ければ頼みやすい。

#### 【村松北区自治会長 鈴木 實】

- ・白方地区で、子ども会があるのは村松北区だけで、他の地区とのつながりがなく、若い人は自治会に興味を持たない。他の地区で子ども会のなくなった理由は、子ども会はやってほしいが、役員はやりたくないということ。役員をやってあげれば、子ども会は存続できるので、そのことで若い世代から年寄りまでを自治会につなげることになる。子どもたちを育てていくことが自治会としても重要である。子ども会への支援をしていく。

#### 【百塚区自治会長 井上 一】

- ・白方小学校の運動会に、地域の人たちが参加できる計画をしてほしい。地域と子どもたちの交流も図れる。

#### 【荒川センター長】

- ・自治会加入のメリット、デメリットや日赤等の会費や募金のことについて、よく意見が出る。これらについて、佐藤部長の考えをお聞かせいただきたい。

#### 【村民生活部 佐藤部長】

- ・デメリットは、会費の支払いや募金等が回ってくることで、会議・お祭り等での人的労力・時間の提供などが挙げられる。又は人付き合いがわずらわしいと思われる方もいる。
- ・自治会に入ったからと言って、金銭的・直接的なメリットはない。自治会は、安全・安心が最優先で、快適に暮らすためにみんなが協力して運営する団体である。防災体制を備えたり、ごみ出し、地域の道路や公園等を綺麗にしたり、防犯パトロール、見守り、お祭りなどを実施して顔が分かる関係を築いていくことが大事だ。自治会の皆さんが、協力し合って活動して安心して暮らせることがメリットである。このことを若い世代、未加入者に理解していただくことが大事で、村も一緒に考えていく。しかし、自治会が疲弊する中、全てをやるのではなく、負担軽減、見直しによって、役員になっても負担にならず、加入しても良いと思う方が増えてくるように繋げていく。
- ・寄付金の考え方について、会費、募金等は、自治会の協力でいただいております、貴重な財源であり、団体活動によって、地域福祉、青少年活動に使用して、地域の中で直接的、間接的に役立っていることを御理解いただきたい。これは、原則として、強制ではなく任意であるが、自治会の未加入者が増えてくると、なぜ会員だけ払わなければいけないのか、などの不公平感や徴収方法に課題があることも承知しているので、どういう方法が良いのか、自治会と一緒に考えていきたい。
- ・百塚区広報紙の1月号に高橋康夫さんの「自治会について思うこと～自治会加入は損得なのか～」というコラムがあり、非常に感銘を受け、素晴らしいと思った。メリットは何か、損得ではなく、老いも若きも一つになって地域に関心を払い、お互い助け合って行政と折衝し住み良くすること、これが自治会の活動と書かれており、非常に素晴らしく共感した。

#### 【村松北区副自治会長 小野寺 紀夫】

- ・先ほど、自治会活動の内容を知らなかった、PR不足との話があったが、自治会員以外にはチラシが行かないので、当然分からない。今の若い人は、SNSだ。やはり役場のホームページで、各地区や単位自治会の活動内容など入れれば、見てくれるのではないか。今の時代、文明の利器や色々なツールを使ったPR活動をすることも一つの考え方である。
- ・自治会加入のメリットは、最終的に安心・安全のお礼だと言っている。

#### 【荒川センター長】

- ・SNSやメリット、デメリットの話が出たが、原子力機構百塚区の森下さん、城戸さんの若い視点からの御意見あればお願いしたい。

#### 【原子力機構百塚区自治会長 森下 祐樹】

- ・突然でありあまり考えてなかったが、SNS等を活用したPRは有効である。スマートフォン等で、情報収集を行う人も多く、SNS活用は良い。

#### 【原子力機構百塚区副自治会長 城戸 健太郎】

- ・東海村は公式でSNSのアカウントはないのか。  
⇒東海村はLINEがある。(村長)
- ・その中に、自治会活動の紹介を載せることは難しいか。  
⇒ホームページなら情報量をどこまで載せられるかの問題はありますが、載せることは多分できる。  
LINEのコンテンツは、難しいかもしれない。(村長)
- ・自分が住んでいる地域で、どのような自治会活動が行われているか、特に子どもが関わるイベント等知らない方が多い。自治会報を配布してもらって、後からイベントなどの情報を知ることが自分たちの世代には結構ある。

#### 【山田村長】

- ・自治基本条例の中に、地域自治を推進する項目として、自治会加入を促進するとあり、自治会は地域の地縁組織として皆さんが運営しているが、自治会活動を支援することは村の役割だと条例上も謳っている。村のホームページに、自治会活動内容を掲載することはできると思うので、対応できるところから実施する。
- ・地域のつながりが薄れている若い世代について、子ども会活動がなくなって、PTA活動は学校からの要請で小中学校までは役員をやっているが、子どもが高校生になったところで終わり、その後地域の活動へとはならない。PTAの役員と自治会のつながりをつくっておかないと、小中学校で役員をやったような人で、高校生をもつ親御さんを、どうやって引き込むか。一緒にやっていきましょうよと、仕掛けていかないと難しい。コミュニティースクールや地域の祭り、運動会等で、小、中、高、大学と世代毎につながりを継続できるような仕掛けを話し合っ  
て欲しい。
- ・高齢者の見守りやごみ出しは、これから大変な時代で、一人ひとり高齢者をサポートすることは、役場職員が一軒一軒訪問はできないので、とは言え地域がボランティア精神だけでやっていて良いのか。特にごみ出しの場合、集積所まで持っていけない人をどうするか。他県では中学生が通学途中に、ごみが玄関前に出ていけば、持って行くような高齢者サポートをする事例もあるので、何とか地域で支えていくことも必要だ。
- ・メリット、デメリットのところを出てきた、活動している人への手当の話では、奉仕精神で良

いのか、一定程度の手当もありかと思う。ある程度、お金又はポイントとして、会議、行事の準備、運営をしたらポイントが付与され、ある程度貯まれば、特産品等と変えられるようなこともあっても良い。ちょっとした御褒美の考え。皆さんの善意だけでやっていくことは難しい。若い人の考え方がおかしいなどと言っても、若い人にやってもらわないともたないのも事実で、理想論だけを語っても解決はしない。現実的に即して若い人たちもドライに割り切って参加してもらえるのであれば、参加しやすい仕組みを少し整理して、やれることを考えていく。

#### 【岡区自治会長 川野 好勝】

- ・岡区自治会は、138世帯に対してごみ集積所が1か所で、一定時間にごみ出しの車が集中し、通行が危険な状態であることや高齢者も増えていて出せない方がいるなどの話を伺っている。集積所として土地を探しているがなかなか貸してくれる方がいないので、アドバイス、方法等を教えてほしい。6班あるので6箇所はほしいと思っている。  
⇒村の公園という考えもあるが、岡区には公園がなく、村の土地を暫定的に使うというのも難しい。個人の土地を探して地主さんに了承をもらえれば、収集運搬車を回すことはできるので、引き続き、地域内で土地を探してほしい。(村長)

#### 【山田村長】

- ・個人情報については、役場では本当に慎重に扱っている。本人の了解なしには何もできず、教えられないのが現状。何かあった時に周りの人に助けをもらうために、高齢者本人に同意をもらって、情報を一定程度、関係者に限定して共有させてもらうことはやっていく。個人情報保護法の法律上の壁もあるので、村が勝手にできないことは御理解いただきたいが、最終的には、個人個人の理解をもらって、セイフティーネットや安全・安心の確保をするために必要なことなので、高齢者、住民の方々に御理解いただけるようにしていく。
- ・今日解決されないことがほとんどなので、地域づくり推進課も含め私も単位自治会レベルの集まりへ顔を出して、地域の課題を一緒に考えていきたい。常会存続、役員の手不足の問題や、単位自治会が疲弊しており、解決をどうするかなどを話したく、今年の秋以降に時間を設けて皆さんにも参加していただきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。

#### 【荒川センター長】

本日は色々な意見、提案が出た。これからも「持続可能な自治会活動」について、地区自治会としても協議を続けて参りたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

#### 【池田課長】

本日は、貴重な御意見をいただきお礼申し上げます。皆さんの話し合いは、議事録としてまとめ、我々行政も活用し参加者全員へ送らせていただく。議事録を活用し、地域の中でテーマに沿って話し合いを続けていただき、今後につなげて欲しい。